

双ヶ丘中だより



京都市立双ヶ丘中学校 4/10 第2号 文責 林

学校教育目標 「心豊かに探究心をもち、未来へ歩み続ける生徒を育成する」

平成31年度 第71回入学式

4月9日(火)に、多くのご来賓の皆様や保護者の皆様にご臨席いただき、第71回入学式を挙行しました。150名の新入生が、桜が満開を迎える中、新しい制服に身を通し校門をくぐりました。新入生は、引き締まった表情で希望に満ちた姿を見せてくれました。式は、厳粛な雰囲気の中にも温かさを感じるものでした。式辞の一部を以下に載せておきます。



今日から、中学生として歩み始める皆さんに二つの事をお話しします。

一つ目は、「言葉を大切にしてほしい」ということです。人間は、言葉によってコミュニケーションをとります。ですから言葉は人間関係をうまくすすめるためになくてはならないものです。言葉は、時には人の心を気持ちよくさせることもあります。時には傷つけることもあります。まず、気持ちよくさせる言葉ですが、代表的なものが「ありがとう」と「ごめんなさい」ではないでしょうか。周囲の人に何かをしてもらった時に心の底から「ありがとう」という言葉をかければ、雰囲気が和らぐのではないのでしょうか。周囲の人の気持ちを悪くした時に素直に心の底から「ごめんなさい」という言葉をかければ事態が悪くなることを防ぐことになるのではないのでしょうか。反対に言葉は人を傷つけることがあります。何げなく発した言葉が自分の思いとは違って誤解されて受け取られて結果的に人を傷つけてしまったという経験はありませんか。ですから言葉を慎重に選んでほしいものです。皆さんは、御室・宇多野・花園の三小学校を中心にいくつかの小学校から入学されました。初めて出会う仲間もたくさんいます。出会いを大切にするためにも言葉を大切にしてお話を楽しんでほしいと願います。

二つ目は、「新しい自分を発見してほしい」ということです。皆さんは、自分というのはどんな人間なのか知っていますか。また、説明できるでしょうか。自分を知ることは意外と難しいですね。自分というものを客観的に見つめることが難しいと感じます。それでは、「新しい自分を発見する」ために大切なことは何でしょう。私は、「好奇心を眠らせず、チャレンジを続けること」だと考えます。チャレンジを続けることで、「こんなこともできるんだ」とか「こんな考え方もあるんだ」など今まで経験したことがない新しい自分を発見することもできるでしょう。ですからさまざまなことにチャレンジすることを大切にしてほしいのです。ある有名な料理のシェフが「一流の料理人なるには何が一番大事ですか」という質問に対して「下ごしらえの場をどれだけ踏んだかですね」と答えたそうです。「気が遠くなるくらい下ごしらえの場数を踏みながら育っていくのです。いもの皮をひとつむくのに心こめて何年もやらないといけません」とも語ったそうです。人間にとって中学校時代は人生を豊かにしていくための下ごしらえをする時期であると感じます。料理の下ごしらえをするように努力をこつこつ積み重ねることが人生を豊かにしていく鍵なのです。「努力」を積み重ねることは決して楽なことではありません。しかし、努力を積み重ねることで自分に自信が生まれ、さまざまなことにチャレンジすることにつながっていくでしょう。そして新しい自分を発見することにもつながっていくでしょう。チャレンジを続けることで、新しい自分を発見し、「これは誰にも負けない」といえる得意なもの、言い換えると「一芸に秀でる」ものを身につけていってください。

就学援助制度について

京都市では、お子達が市立小・中学校へ通学するにあたり、経済的な理由により、お困りの保護者に対して、学用品費や給食費などを援助する就学援助制度を設けています。

申し込みの手続きやご相談・ご質問がある方は、学校までお申し出ください。